北海道医報購読料年間6,000円。北海道医師会員にあっては会費の中に含まれています。

道医の動き

３月10日　三役会。
３月11日　第26回常任理事会。
３月12日　北海道自動車保険医療連絡協議会。産業医活動促進対策事業所打合会（於北見　並木・榊山両常任理事）。

（29頁へ続く）

内視鏡

北海道医師会の広報

前広報部長　西　　信博

1989年４月、後志ブロックから北海道医師会常任理事に選出された。即座に吉田信会長から広報部長を指名された。その他に医政部、医療関連事業部、病院部などに所属して、14年が過ぎた。

1989年５月１日発行の北海道医報第695号から、編集・発行の実務一切を任された。練達の事務局がバックに控えているが、月２回の締切に追われる新米理事への重圧は相当のものであった。

道医報の裏表紙のコラムは「編集後記」「EKG」「反射鏡」を経て、1977年から「内視鏡」となり、歴代広報部長が健筆をふるってきた。

私はこのスペースに勝手なことを書くことにした。道医報は機関紙だから、中身には制限があるが、裏表紙ならいいだろうという理屈である。

自分の視点、つまり臨床医・開業医の目から見た「医療時事問題」や「医療の傾向と対策」をとりあげた。しかし行動範囲が狭く、面倒くさがりなので、テーマはおのずから限られてしまう。

最初のうちは野党精神を発揮して、かなり先鋭的だったのが、漸次筆鋒が鈍くなり、体制ドップリに変わってきた。医療をめぐる時代の変化、自分の老化も関係していることだろう。

当初の情報源は、新聞、週刊誌などが多かったが、業界紙、各地の医師会報やファックス、インターネットなどからの取材が増えてきた。

700号、800号と節目の時には記念号を出した。

1999年には北海道医師会史・創立50周年記念が発行され私は安倍保正委員長のお手伝いをした。

1000号記念誌を2002年８月１日に発行した。多くの寄稿をいただき、記念事業として表紙写真集を出した。この頃私は脊椎疾患で北大整形外科で手術をうけて、病床で呻吟していた。この第1000号で内視鏡の連載を中止した。これまでの「内視鏡」に書き続けたコラムは306編に達した。

登山や精神科医療などについて書いた随筆と、このコラム集をあわせて、1994年には私家版「山のあなたの空遠く」2000年には「山のあなたの空遠くⅡ」を発行した。毎月締め切りに追われて書いたおかげで、出版にこぎつけることができた。

日医広報委員会には道医の指定席がある。毎月２回、日医ニュースの編集委員会が開かれ、私は1990年から出席し最古参となった。全国各ブロックから出てくる委員の間で、各地の医療事情を反映した議論も活発で、勉強になることも多い。

この委員会ではときどき中央のマスコミ関係者と意見交換をする。彼らは紙面や画面に現れる意見とは違って、医療の実情をよく知っているが、営業上の制限があって書けないと嘆く。

全国の多くの医師会が広報誌を発行している。

それぞれに特徴があって面白い。マスコミや行政も医師会の動向を知ろうと熟読している。その中で北海道医報は、中身もさることながら、表紙写真と「内視鏡」が、相当の評価をうけている。

リアルタイムで情報が流れる時代に応じて、北海道医報は月２回から月１回の発行となった。その一方でインターネットを経由して、多くの日医や道医の情報を会員に送る。そのために毎朝コンピュータを開く習慣をつけていただきたい。

道医役員を辞するにあたって、長い間おつき合いいただいた会員各位のご厚情に感謝する。